

大博物館だより

NO. 55
2007.7

津山郷土博物館

市内の中学生、 郷土博物館で学習

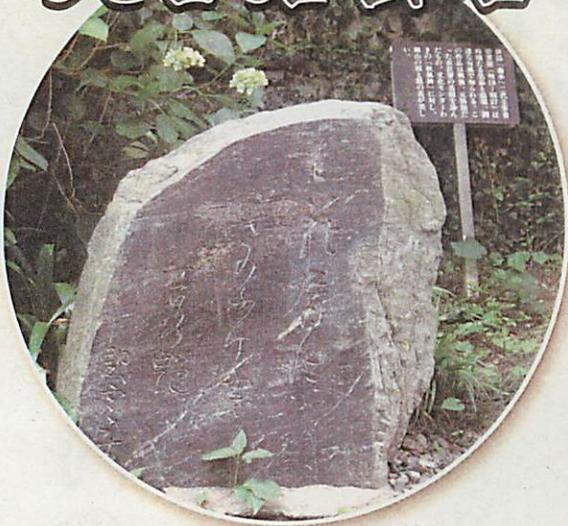


6月15日、校外学習の課題を与えられた鶴山中学校の生徒たちは、少人数のグループに分かれて当館を訪れ、楽しく郷土の歴史を学びました。

当館では、中学生以下の子供は入館料無料、引率の先生は入館料免除となるので、学校行事での利用には最適です。また、事前に日程調整していただければ、学芸員が学習の補助をすることもできます。

へき うん きよ
大谷碧雲居

(津山市山北出身・本名「浩」)



鶴山塾入口句碑「花屑に」

当館所蔵の「大谷家資料」の中に、大谷碧雲居関連のものがある。

碧雲居は、明治8年9月9日、現在の津山市山北に、江戸時代から大庄屋として続く大谷家、大谷裕の二男として生まれた。のち、伯父の大谷是空の養子になる。津山中学から東京美術学校洋画科卒。在学中から俳誌「曲水」主宰の渡辺水巴に師事。中外商業新報社（現日本経済新聞社）に勤務、最初はイラストレーター、後に記事の方を執筆するようになり、編集局長、取締役まで務めた。戦時中に新聞社は退職し、津山に疎開していたが、昭和21年8月、渡辺水巴の死去により、「曲水」の2代目主宰に就任。当館所蔵の俳誌「曲水」は、その前後を中心に、大正5年11月から平成7年3月まで、途中欠けているものもあるが、概ね良好な状態で揃っている。また、碧雲居の本業である絵画作品数点、自筆句稿、句帳、句集、軸、内藤鳴雪・渡辺水巴関係の資料、内外商業新報関係資料、俳諧関連資料などがある。ちなみに、大谷是空は、津山市山北

の大谷家の出身（裕は長兄）、正岡子規と大学予備門の同窓であり、文学を通じて親しい交友関係にあった。また、「曲水」は渡辺水巴を初代主宰者として発足、正岡子規～内藤鳴雪～渡辺水巴とつながる全国的な俳句結社で、今日も隆盛である。

当館では、平成8年度、春季特別展「正岡子規と大谷是空」を開催しており、大谷家資料を一部展示した。一部常設展示もある。

戦後、津山市田町に帰郷していたころの碧雲居作品を俳誌「曲水」から紹介する。

串の鮓^{はや}枯るるひかりの十三夜
鶉^{ひよ}鳴いて葺^{たけ}山あつくなり^にけり
蒼天や雪はなくとも冬の山
寺に来て炬燵^{こたつ}あつけれ夜の菊
山々に雪来ぬわが廬客一人
庭枯れて石巨大なる冬至かな
ぼうたんの客たり和尚留守の寺
寺の飯この世に白し松落葉
遠来の客藍兒君と奥津温泉に遊ぶ
藤の花一ふさ^{たに}澗を深くせり
岩魚釣巨石残して去りにけり
岩魚釣れぬ^{ほんたん}奔湍聲を呑みて藍
岩魚焼けぬ一片露の山椒の芽
鶴山公園周辺の句碑

(鶴山球技場入り口)

花屑にきのふけふなし苔の艶

(鶴山塾入り口)



俳誌「曲水」



鶴山球技場入口句碑「秋風や」

「城下町と酒」を開催



▲江戸時代の酒造場の図（個人蔵）



▲酒造道具（キツネ桶一醪を酒袋に入れる際に用いる）（個人蔵）

「優れた文明には優れた酒がある」—日本が世界に誇る酒、それが日本酒です。今回は宝暦8年に創業し、現在も続く造り酒屋である苅田家や、寛文年間に創業した津山市榎の多胡本家などの資料及び、幕末に酒どころとして有名になった灘五郷のうち西宮の資料を中心に「酒」の産業としての側面及び文化的な側面にスポットを当てます。

産業としての「酒」では酒造の流れを解説し、あわせて、実際に使用されていた酒造道具も展示します。

また、文化的な面では「酒」がいかに人々に愛されていたのかを示す、江戸時代の書物に描かれた宴会風景の挿絵や、津山城下町で

起こった「酒」をめぐる色々な事件について、展示・解説をいたします。そして、これらを通して城下町津山における「酒」のありかたをご紹介しますと考えています。

平成19年度特別展

「城下町と酒」

会 期：平成19年10月6日（土）～11月11日（日）
休館日 10月9・10日、15日、22日、29日
11月5・6日

会 場：津山郷土博物館3階展示室

時 間：午前9時～午後5時（但し入館は4時30分まで）

料 金：一般210円、大学・高校生150円

小中学生以下は無料

30人以上の団体は2割引

博物館からのお知らせ

☆収蔵庫・展示室の燻蒸をしました。
6月17日(日)～21日(木)

☆「津山郷土博物館(旧津山市庁舎)」



国の登録文化財
のプレートを、
正面右手の壁に
設置しました。

(寛政9年)

「津山松平藩町奉行日記十五」
発売中です。 頒価 900円

津山郷土博物館窓口でお求め下さい。

歴史教室 参加者募集

弥生土器をつくる

ねらい 弥生土器のつくり方を復元しながら、
弥生時代の技術や生活を学習する。
主催 津山郷土博物館
参加対象 小学校5・6年生
日時 平成19年7月20日(金)・8月10日(金)
2日間(ただし8月10日は雨の場合 順延)
午後1時～4時
場所 津山郷土博物館2階研修室 他
内容 (1)粘土で土器をつくる … 7/20
(2)土器を野焼きする … 8/10
定員 25人
参加費 200円(材料費)
申込方法 参加費をそえ、直接来館して7月13日までに
申し込む(先着25人で切)
申込先 〒708-0022 津山市山下92
津山郷土博物館 TEL 0868-22-4567

古文書講座

「町奉行日記を読む」

毎月第2木曜日
実施中

☆文化財めぐり〈友の会〉 9/15(土)・11/10(土)・3/8(土)

※行き先は追って連絡します。バス研修も考えています。

☆「博物館だより」の発行 No.56 10月1日、No.57 1月1日

☆今年度刊行予定・「津山松平藩町奉行日記十六」(博物館紀要第22号)
・特別展図録「城下町と酒」

その他のお知らせ

『津山のわらべうた～城下町編～』 発売中

著者

井戸 和秀(岡山大学教授)、杉山 知子(美作大学教授)
山田美那子(劇作家)

内容

津山地方、特に津山の城下町で歌われてきたわらべうたを採集し、
楽譜と絵で再現し、説明を加えたり、他の地域の同様のわらべうた
との比較を行いました。 B5版、165ページ

掲載曲【全75曲】

こもりうた：「向うの山を」他6曲
縄跳び・鬼あそび・集団あそびのうた：「おじょうさん」他8曲
まりつき・羽根つき・お手玉のうた：「妙願寺の屋根に」他11曲
天体・動物・植物のうた：「お月さんなんぼ」他13曲
ことばあそび・しりとり・数えうた：「ぞうり隠し」他12曲
二人あそびのうた・冷やかしょうた：「一かけ二かけ」他15曲
いろいろなうた：「山寺の和尚さん」他3曲

購入希望の方には、1冊2,000円で販売します。

購入希望の方は、津山市山北520 津山市教育委員会文化課(東庁舎)
(TEL 32-2121)までお問い合わせ下さい。

※津山郷土博物館でも購入できます。



博物館にもあります。(無料)

博物館入館案内

- 開館時間：午前9：00～午後5：00
- 休館日：毎週月曜日・祝日の翌日
12月27日～1月4日・その他
- 入館料：一般 210円(160円)
高校・大学生 150円(120円)
中学生以下 無料
※()は30人以上の団体

博物館だより No.55 平成19年7月1日

編集・発行：津山郷土博物館
〒708-0022 岡山県津山市山下92
☎(0868)22-4567 ☎(0868)23-9874
E-mail : tsu-haku@tv.t.ne.jp

印刷：株式会社 廣陽 本社